

津軽広域(企)導水管二重化DB

栗本Gに優先交渉権

津軽広域水道企業団は1月25日、導水管路耐震化(二重化)事業の優先交渉権者に栗本鐵工所東北支店を代表企業とするグループを選定したことを公表した。その他のグループ構成企業は日本水工設計青森事務所(設計企業)と丸勘建設(地元建設企業)。

この事業は、単線となつている津軽広域水道用水供給事業の導水管を二重化し、バックアップ機能を構築するためのもの。発注には設計・施工一括(DB)方式、事業者選定には公募型プロポーザル方式を採用した。要求水準等によると、設計・施工の対象は取水

バルブ室から総合浄水場までの管路。4工区の総延長は約7.5km、口径はφ800～900mmで、水管橋1カ所と推進工3カ所が含まれる。起点・終点の既設管との接続は不断水分岐で行う。調査見積上限価格は52

億7841万6000円(税込)としていた。事業開始後もコスト縮減の提案を求めるため、プロフィットシェアの仕組みを導入する。

公募には2グループから応募があった。提案内容の審査は学識者等で構成する事業者審査委員会(委員長 飯島裕胤弘前大学人文社会科学部部長)が行い、最優秀提案者を優先交渉権者とした。